

平成24年10月31日 各 位

上場会社名 株式会社ショクブン

代表者 代表取締役社長 川瀬 公

(コード番号 9969)

問合せ先責任者 取締役経理部長 田野 光夫

(TEL 052-773-1011)

# 業績予想の修正等に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成24年5月9日に公表した業績予想を下記の通り修正等いたしましたのでお知らせいたします。

記

# ●業績予想の修正等について

平成25年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値との差異(平成24年4月1日~平成24年9月30日)

「成20十0万刻分2百十刻(京町) 生帖未慎 『心妖心との足共(「成27十~万~百				1 75,27 + 3 7,00 日,	/
	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半 期純利益
W	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	5, 021	△15	△57	△81	△6. 92
今回実績(B)	4, 619	△36	△85	△68	△5.82
増減額(B-A)	△402	△20	△28	13	
増減率(%)	△8.0				
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成24年3月期第2四半期)	5, 148	76	31	5	0. 51

#### 平成25年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

1次20~0万分运动是相来模引心效准的停止(1次21~171~1			1 /20 1 0 / 1 0 I D		
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期 純利益
*D*********	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	10, 788	320	232	105	8. 86
今回修正予想(B)	10, 135	249	154	50	4. 22
増減額(B-A)	△653	△71	△78	△55	
増減率(%)	△6.1	△22. 2	△33. 6	△52. 4	
(ご参考)前期実績 (平成24年3月期)	10, 523	309	215	94	8. 42

# 平成25年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値との差異(平成24年4月1日~平成24年9月30日)

平成25年3月期第2四千期(茶計)個別耒粮予忠致順との差異(平成24年4月1日~平成24年9月30日)					
	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半 期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	5, 014	△43	△54	△69	△5. 84
今回実績(B)	4, 613	△62	△81	△54	△4. 64
増減額(B-A)	△400	△18	△26	14	
増減率(%)	△8. 0	_	_	_	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成24年3月期第2四半期)	5, 143	51	36	20	1. 88

### 平成25年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

平成23年3月朔週朔迴別未積予忠致恒の修正(平成24年4月1日~平成23年3月31日)						
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期 純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭	
前回発表予想(A)	10, 769	264	206	100	8. 44	
今回修正予想(B)	10, 118	196	129	47	3. 96	
増減額(B-A)	△651	△68	△77	△53		
増減率(%)	△6.0	△25.8	△37. 4	△53. 0		
(ご参考)前期実績 (平成24年3月期)	10, 510	259	194	94	8. 44	

### 修正等の理由

# 1. 第2四半期連結累計期間

当第2四半期連結累計期間では、新規のお客さまへの割引サービスや、既存のお客さまへのご注文特典など、35周年謝恩特別企画のサービスを実施しておりますが、個人消費は、将来の消費税増税などの消費者マインドを押し下げる要因があり、食品業界におきましては、デフレの影響を強く受け、企業間の低価格競争が激しさを増しております。

その結果、売上高、営業利益、経常利益は前回予想を下回り、それぞれ46億19百万円、 $\triangle$ 36百万円、  $\triangle$ 85百万円になりました。四半期純利益は、繰延税金資産の計上のため前回予想を上回り、 $\triangle$ 68百万円 になりました。

### 2. 通期連結業績予想

通期の業績見通しは、第2四半期連結累計期間業績および直近の実績も踏まえ、減額修正するものであります。

3. 個別の第2四半期累計期間業績および通期業績予想につきましても、連結と同様の理由によりそれぞれ修正等いたします。

#### 対策

下期につきましては、メニュー全般において、材料のボリュームアップや料理点数を増やすなど改善を行い、食卓が豪華になる当社のメニューの魅力をお客さまにアピールするとともに、業務部の設置をするなど、営業組織の活性化をさせることにより、受注軒数の増加を図ってまいります。

※ 業績予想等につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上